

# 強い責任感と使命感を再確認

## 厚真消防創設百周年記念式典・祝賀会を盛大に挙る

明治四十年公立消防組として産声を上げた厚真消防が百周年を迎え十一月二十四日、総合福祉センターで式典と祝賀会（厚真消防創設百周年記念実行委員会主催）が執り行われました。

式典では、実行委員長の大西武雄厚真消防団長が「町民との絆を大切に、町民のための消防として強い責任感と使命感を持ち、一層の努力を誓う」と式辞。来賓の藤原町長や河村町議会議長などから「歴史と伝統を誇る厚真消防が、この百周年の節目を契機に、より一層魅力と活力を持ち、地域住民に親しまれ信頼されることを期待する」と祝辞が寄せられました。また、胆振東部消防組合から厚真消防団に竿頭綬が授与されるとともに、本瀬前消防団長などへ感謝状を贈呈。参列者全員が厚真消防の節目を祝い、気持ちを新たにしていきました。



式辞を述べる大西武雄厚真消防団長（上）

## ちょっと辛いけどコクがある 本格キムチづくりに挑戦

町国際交流協会（館山睿会長）が主催し11月9日、総合ケアセンターゆくりで世界をつなぐ異文化交流事業「キムチを一緒につくりましょう」が行われました。

正楽寺（軽舞）住職の奥さんである金光多真美さんが講師を務め、約20人が本格キムチづくりに取り組みました。

在日韓国人二世の金光さんは、唐辛子やリンゴなどを混ぜたキムチの素になるヤンニョムづくりから披露。参加者は、一枚一枚丁寧にヤンニョムを擦り込んでいく金光さんの手つきに注目していました。

金光さんの手つきを注目する参加者



なごやかな雰囲気の中で人権教室



## 自作自演の紙芝居 思いやる心を持てる人に育って

札幌法務局苦小牧支局などが主催し11月21日、上厚真小学校（横山守校長）の1年生15人が「人権教室」の授業を受けました。講師は、同校元校長で苦小牧人権擁護委員協議会の實吉智子さんや本町の人権擁護委員の近藤広春さん（本郷）、高田真知子さん（朝日）など5人。

手作りの紙芝居で子どもたちに相手を思いやる気持ちを育ててもらいたいと願いを込めて、講師全員が熱演。子どもたちは、紙芝居の登場人物の気持ちを話しあい、友だちの大切さを学んでいました。

# まちの話題

町では11月8、22日の2日間、「やさしい精神保健講座」を総合ケアセンターゆくりで行いました。

近年、うつ病などの気分・感情障害を患う方が増加しており、その病気に対する啓発の必要性から昨年に引き続いての開講。講師に、精神保健福祉士の三浦一郎さんを迎え、講話やグループワークなどを行い、参加者はうつ病などに対する理解を深めていました。



## 自分ならどうしてほしい？そんな時

## つながる心つなげる想いをテーマに 中央小創立110周年を祝う集い

明治三十年苦小牧尋常小学校校振老分校として開校した厚真中央小学校（近藤茂校長）が、創立百十周年を迎え、その祝う集いが十一月二十八日、開校百十周年記念事業実行委員会の主催により同校で行われました。石橋公昭実行委員長が「明治、大正、昭和、平成と時代を重ね約九千人の卒業生を輩出してきた中央小。歴史と伝統を守りさらなる発展をしていきたい」と開会のあいさつ。「つながる心つなげる想い」をテーマに、楽器演奏、踊りなどの児童発表、保護者で組織されたサークルによる厚真の歴史を振り返る紙芝居や合唱、幌内神楽が華を添え、最後に校歌を合唱し節目を祝っていました。



児童発表(上)、町民吹奏楽団の伴奏で校歌などを全体合唱

胆振町村会（厚真町長・藤原正幸会長）の主催で「トーク2007支庁長&いぶり」が11月13日、総合福祉センターで行われました。

管内7町から30代の町職員が一人ずつ出席し、大杉胆振支庁長との意見交流会。冒頭、大杉支庁長は「胆振は産業がバラエティーに富み元気な地域。サミットの追い風もあり、さらに北海道をけん引する地域。肩の力を抜いて話し合しましょう」とあいさつ。本町からは、谷口幸世主任保健師が「健康支援プログラム」をテーマに発表していました。



## 明日の元気な胆振について語り合う



町と室蘭地方気象台による「防災講演会」が十一月十五日、総合福祉センターで行われ、約六十人が厚真における水害・地震災害の傾向や天気図の見方、災害の心構えなどを学びました。専門官は「想像以上の雨が降らないとは限らない」、「いつどこで大地震が発生してもおかしくないのが日本」と話し、参加者は災害の発生に対して心を引き締めていました。

## 気象情報を利用して 早めの準備が命を守る



丸木舟に  
厚真の昔を思い巡らす

上野地区の厚真川河岸で今年五月に発見、十月に回収されたアイヌ民族が使ったものと推測される丸木舟の見学会が十一月四日、保管されている旧かしわ保育園で行われました。

長さ約六・六メートル、幅約〇・六メートルで原型をとどめている丸木舟に、見学者は顔を近づけて興味深く観察。厚真川をこの舟で渡っていた当時の人々や風土に思いを巡らせていました。

# まちの話題 plus



長男の守さんに町長から特旨叙位を伝達

## 故小納谷力蔵さんに特旨叙位

今年9月に亡くなられた元厚真町町議会議長、小納谷力蔵さん(幌内)に正六位の特別叙位が発令され、11月12日、役場町長室に長男の守さんと次男の誠司さんが訪れ、守さんに藤原町長から特旨叙位の位記が伝達されました。故小納谷さんは、昭和46年から平成3年までの5期20年の永きわたり町議会議員を務め、その間、昭和54年から12年間、議長を歴任。公平かつ冷静な判断と地方自治に対する高い見識で町政および地方自治の発展に大きく貢献されたことにより、平成10年に勲五等瑞宝章を受章されています。

## 飛谷さん(本町)に総務大臣表彰

元厚真町監査委員、飛谷富夫さん(本町)に11月14日、役場町長室で藤原町長から総務大臣表彰が伝達されました。

飛谷さんは、平成5年4月から平成17年3月まで3期12年にわたり、町監査委員を歴任。その間、町の行財政運営における重要問題について、行政のあり方と機能分担行政の簡素合理化、財政運営の効率化、財源の充実・確保など行財政全般にわたり検討を加えるとともに、行財政運営改善方策に積極的に取り組み、行財政機能を向上させた功績を讃えられ表彰されたものです。



藤原町長から表彰状を伝達される飛谷さん



神谷さんから町長に寄付金が渡される

## 福祉に役立ててと神谷さんから寄付

今年9月に亡くなられた医療法人苦仁会の神谷利郎会長の意向を受け、奥さんの利江子さんが11月15日、役場町長室を訪れ老人福祉に役立ててほしいと町に50万円を寄付していただきました。

故神谷会長は長年にわたり老人福祉に尽力され、今年6月まで診療に携わっていましたが、病気のため9月28日に79歳で亡くなりました。

寄付を受けるに当たり、藤原町長が感謝の意を表すとともに、奥さんの利江子さんへ感謝状を贈りました。神谷利郎さんは、平成8年にも100万円を本町に寄付していただいています。

## 山田さんご夫妻から山水画を寄贈

開拓団として中国にわたり昭和55年に帰国した山田光平さんと中国天津市出身の奥さんの恵子さん(上厚真)が11月16日、役場を訪れ山水画を町に寄贈していただきました。

この山水画は、中国の北京で購入されたということで、大きさは横150cm 縦50cm。画の中に引きこまれていくような幻想的な作品で、画に合う額縁も山田さんの特注品。山田さんご夫妻は「町にお世話になったので感謝の気持ちです」と町長に手渡し、町では早速画を町長室に飾り、町長室を訪ねる方々の目を楽しませています。



中央が山田光平さん、左が奥さんの恵子さん



新しい臼で餅つきをする園児たち

## 新しい臼<sup>うす</sup>で京町保育園児お餅つき<sup>もち</sup>

11月30日、京町保育園で恒例の餅つきが行われ、園児たちは真新しい臼でヨイショ、ヨイショの掛け声をあげ餅つきを楽しみ、つきたての餅をおいしそうに頬<sup>ほお</sup>ばっていました。

新しい臼は、青木秀夫さん(幌内)から寄贈されたもので、青木さんが京町保育園の臼がひび割れなど老朽化していたことを聞き、メジロ<sup>かば</sup>櫛を材料に子ども用の臼を丹精込めて手作りしたものです。

青木さんは「昔、すみれ保育園(幌内)の園長を6年間やっていたこともあり、子どもたちのために何かしてあげたかった」と話していました。

## 車は急に止まれないよねコウちゃん

みつば保育園(富里・佐藤泰夫園長)と京町保育園で11月26日、川村高康さん(安平町)の腹話術による交通安全教室が行われました。

川村さんは、25年ほど前に新聞で腹話術についての新聞記事が目に入り、それ以来独学で腹話術を学び、保育園や福祉施設を訪問し子どもたちやお年寄りたちを楽しませています。

コウちゃん人形と川村さんとの巧みな言葉の掛け合いを、時に子どもたちは笑ったり、真剣な眼差しの様子。川村さんは、腹話術を通して交通安全の大切さを子どもたちに教えていました。



みつば保育園での交通安全教室



中野さんの指導で(中央)でワークをする参加者

## 子どもを叱るコツはその時その場で<sup>しか</sup>

町PTA連合会(渡部孝樹会長)主催による講演会が11月25日、総合福祉センターで行われ、約70人の保護者や学校関係者が熱心に札幌市のスクールカウンセラー中野ひろみさんの話に耳を傾けていました。

中野さんは、「思春期の子どもへの関わり方～具体的なヒントあれこれ～」をテーマに、参加者同士が交流するワークを織り交ぜ、テンポよく講演。

子どもを叱るときのコツや子どもをキレさせる要因などについて具体的な事例を挙げながら話していました。

## 僕たちが育てた大豆で豆腐づくり

厚真中央小学校(近藤茂校長)の4年生29人が11月30日、こぶしの湯あつま農産物加工実習室で豆腐づくりに挑戦しました。

4年生は、今年の総合的な学習の時間で大豆を育てる学習を行い、校地の畑で約1.3<sup>㍓</sup>を収穫しました。この日は、その集大成で、自分たちの収穫した豆と市販の豆を混ぜ、インストラクターの指導で豆腐づくりの全過程を体験しました。

柳田大輝くんは「豆腐づくりは結構手間がかかって大変。お店で豆腐を見かけたら、豆腐づくりのことを思い出すかも」と話していました。



豆腐を型に流し込む作業をする子どもたち



厚真市街地で交通安全などを呼びかける

## 交通安全を呼びかけ旗の波

冬の交通安全運動の初日となる11月21日、厚真市街地でセーフティコールが行われ、町内の団体、事業所などから約70人が参加して、交通安全と事故防止を旗の波で呼びかけました。

開会式で苫小牧警察署大屋根交通第一課長が「これから気象条件や路面状況は悪くなる。交通事故防止には皆さんの協力が不可欠」と激励。

厳しい寒さの中、両車線歩道に分かれた参加した皆さんは、「危険！運転中の携帯電話」、「シートベルトを着用しよう」と書かれたのぼりを掲げ、行き交うドライバーに交通安全の徹底を呼びかけていました。